氏名	飯岡由紀子	部署	大学院研究科	職名	教授
研究分野	臨床看護学、がん看護学、看護教育、Women's Health、慢性期看護学				
学位	博士(看護学)				
学歴	聖路加看護大学看護学部看護学科、聖路加看護大学看護学研究科博士前期課程、聖路加看護大学看護 学研究科博士後期課程				
経歴	兵庫県立看護大学助手、杏林大学保健学部看護学科助手、聖路加看護大学助手、聖路加看護大学准教 授、東京女子医科大学看護学部教授				
	日本看護科学学会(査読委員)、日本がん看護学会(代議員・査読委員)、日本緩和医療学会、日本乳癌学)会、東京女子医科大学学会(評議員)、クリティカルケア看護学会、日本小児看護学会、日本看護学教育学会、聖路加看護学会、日本女性医学学会(幹事)、日本女性心身医学会(評議員)				

## 【2017年度実績】

【201/年度美稿】							
1. 積	1. 研究業績						
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了 ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は〇印)	発行・発表年月		
(1)	著作						
1	がんの親をもつ子どもたちをサポートする 本	共著	青海社、128-134、107、 119、120、121、123	編集: 子 有質 学子、小林真、 等子、小林真、 等子、小林真、 等工、。 等工、、 等工、、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	2017年6月		
2	チームで学ぶ女性がん患者のためのホル モンマネジメント	共著	篠原出版新社、26、 108、140-141、240- 241、285-286、245-251	監修:青木大輔、上 野直人、中村清吾 編集:佐治重衡、清 水千佳子 著者:飯岡由紀子他 44名	2017年7月		
(2)	論文						
	第82回東京女子医科大学学会総会シンポジウム「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育の成果(2)がん看護専門看護師	単著	東京女子医科大学雑 誌、87(1·2号)、14-19	飯岡由紀子	2017年4月		
2	「配慮が必要な学生」の学びにつなげる対応臨地実習における教育上の調整を考える 気分の落ち込みと学習意欲の低下が強く、気分の変動により学習に支障をきたしている学生への対応	単著	看護教育、58(7)、576- 581	飯岡由紀子	2017年7月		
ა	「配慮が必要な学生」の学びにつなげる対応臨地実習における教育上の調整を考える 学習意欲や集中力の低下や思考の混乱がある学生への対応	単著	看護教育、58(9)、786- 791	飯岡由紀子	2017年9月		
4	「配慮が必要な学生」の学びにつなげる対 応臨地実習における教育上の調整を考え る 軽度の聴覚障害のある学生への対応	単著	看護教育、58(10)、872- 87	飯岡由紀子	2017年10月		
5	「配慮が必要な学生」の学びにつなげる対 応臨地実習における教育上の調整を考え る 痛みや行動制限がある学生への対応	単著	看護教育、58(11)、965- 969	飯岡由紀子	2017年11月		
6	「配慮が必要な学生」の学びにつなげる対 応臨地実習における教育上の調整を考え る 痛みや行動制限がある学生への対応	単著	看護教育、58(11)、965- 969	飯岡由紀子	2017年12月		
7	婦人科がんサバイバーの術後の苦痛と心 配事の実態	単著	聖路加看護学会誌、 21(1·2)	飯岡由紀子	2018年1月		

おしたが必要な学生」の学以上つなける対   方面を表現に対するがよりの学以上の対した。対   方面を表現に対するというのでは、   方面を表現に対するとの関連を含え   方面を表現を表しているのかを理解する。文献レー   方面では、一面では、一面では、   大き								
9 公開議師(学生の抱える問題の理解文 単著   対しているのかを理解する: 文献レビュー   実践を変える研究(2)何がどこませわ   かっているのかを理解する: 文献レビュー   がん看護、23(3)、347-   裁同由紀子   2018年3月   2017年3月   2017年6月   2017年7月   2017年6月   2017年7月   2017年7日   2017年7月   2017年7日   2017	8	る 学生の学びを促す対応に向けたFDの	共著		子、小川純子、松岡	2018年1月		
10 かっているのかを理解する:文献レ   単名   175	9	公開講座「学生の抱える困難の理解と支援」に参加して考えたこと	単著		飯岡由紀子	2018年2月		
ロリ人変重者におけるリハピリテーシュン   共著   日本のリティカルケテ看   伊藤條子、飯岡由紀   2017年6月   東京から全港者の庭状縁和におけるかと   共著   第22回日本縁和医復学   十日千様、飯岡由紀   2017年6月   2017年7月   2017年7日   2017年7日	10	かっているのかを理解する:文献レ	単著		飯岡由紀子	2018年3月		
一の現状と顕微に関する公献検討   外奇   護学会誌 13(2) p170   子   子   子   子   子   子   子   子   子	(3)	学会発表						
2			共著			2017年6月		
End of Life Care実践のための支援		オイド使用に影響する医療者側の関連要	共著			2017年6月		
4 制が体位変換を行わないと判断した理由		プログラムの開発と有効性の検討:パイ	共著	会学術集会 抄録集	美、中山祐紀子、田 代真理、榎本英子、 高山裕子、村田千	2017年6月		
5 PMS/PMDOに対する年齢を考慮に入れ た治療法の選択 学常集会的録集、p71	4	師が体位変換を行わないと判断した理由	共著	会学術集会 抄録集	紀子	2017年6月		
中   中   中   中   中   中   中   中   中   中			共著		澄、飯岡由紀子、堀 口文、牧田和也、高	2017年7月		
大名   大名   大名   大名   大名   大名   大名   大名	6	がん看護外来の看護師が抱く今後の課題 一全国調査の結果から一	共著			2017年9月		
# 名	7		共著		実、鈴木香織理、峯	2017年12月		
9 対する教育上の調整に関するFDプログラムの開発     共著     第37回日本看護科学学会学術集会抄録集     2017年12月       10 レスナイフ)を受けた患者の体験     共著     第37回日本看護科学学会学術集会抄録集     大場亜希子、飯岡由紀子、1月       (4)その他     教員としての教育観とその背景にある組 接着のあり方を考える一学生への対応に図った10事例を通して一場では、1一次の開発を表する。 第2年の研究の研究を表する。 第4年の対応に図った10事例を通して一場の資金等の研究     共著     「看護学教育における日本の別様報告書記を表すの別します。」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」     1 文部科学省科学研究費(基盤研究B)     研究代表者研究分担者の別日本におけるが人看護外来のアウトカム評価指標の開発とがん看護外来の有効性の検討、研究代表者で研究代表者を持続の開発とがん看護外来の有効性の検討、研究代表者を表する。 第2年表者を表する。 第2年表者を表する。 第2年表者を表する。 第2年表者を表する。 第2年表者を表する。 第2年表者を表する。 第2014~2017年度、第2015~2017年度、第2			共著		子、尾崎恭子、大久 保由美子、飯岡由紀	2017年12月		
(4) その他		対する教育上の調整に関するFDプログラ	共著		子、松岡千代、吉本	2017年12月		
教員としての教育観とその背景にある組   接著   「看護学教育における   日本に10事例を通して一   共著   「看護学教育における   日本に10事例を通して一   日本に10事例を通して一   日本に10事例を通して一   日本におけるがの研究   日本におけるがん看護外来のアウトカム評価   技部科学省科学研究費(基盤研究B)   日本におけるがん看護外来の有効性の検討、研究代表者   日本におけるがん看護外来のアウトカム評価   指標の開発とがん看護外来の有効性の検討、研究代表者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者   日本における自由の表と教育効果、研究分担者   日本における自由の表と教育効果、研究の対理者   日本における自由の表と教育効果、研究の対理者   日本における自由の表と教育効果、研究の対理者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者   日本における自由の表と教育効果、研究の対理者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究の対理者   日本における自由の表と教育効果、研究の対理者   日本における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者   日本における主体性育成教育プログラムの関係と教育内を対理者   日本における自由の表と表において工夫した点)   日本における主体性育成教育プログラム関係、研究代表者   日本における自由の表と表において工夫した点)   日本における主体性育成教育プログラム関係、研究代表者   日本における自由の表と表において工夫した点)   日本における自由の表と表において工夫した点)   日本における自由の表と表に表に表します。   日本における主体性育成教育プログラム関係を表において工夫した点)   日本における音楽を表に表に表しまする。   日本における音楽を表に表しまする。   日本においる音楽を表に表しまする。   日本における音楽を表に表しまする。   日本における音楽を表に表しまする。   日本に対しまする。   日本に対しまする	10	転移性脳腫瘍により定位放射線治療(ガ ンマナイフ)を受けた患者の体験	共著			2017年12月		
教員としての教育観とその背景にある組     報のあり方を考える一学生への対応に     根著   「看護学教育における     日本に10事例を通して     2. 競争的資金等の研究     競争的資金等の研究       文部科学省科学研究費(基盤研究B)   日本におけるがん看護外来のアウトカム評価     指標の開発とがん看護外来のアウトカム評価     指標の開発とがん看護外来の有効性の検討、     研究代表者     で変代表者     で変代表者     日本におけるがん看護外来のアウトカム評価     指標の開発とがん看護外来の有効性の検討、     研究代表者     で変代表者     で変化表表     で変化表表     で変化表表     で変形での臨地実習における合理的配慮の     構造化とFD・SDプログラム開発、研究代表者     で変代表者     で変形である理的配慮の     で変形を表表     で変形を表示を表示を表表     で変形を表表     で変形を表表     で変形を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	(4)	その他						
競争的資金等の名称         研究名、研究代表者・研究分担者の別         研究期間           1 文部科学省科学研究費(基盤研究B)         日本におけるがん看護外来のアウトカム評価指標の開発とがん看護外来の有効性の検討、研究代表者         2014~2017年度           2 文部科学省科学研究費(基盤研究C)         看護基礎教育における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者         2015~2017年度           3 文部科学省科学研究費(挑戦的萌芽)         看護系大学の臨地実習における合理的配慮の構造化とFD・SDプログラム開発、研究代表者         2016~2019年度           3. 教育業績 講義・演習・実習・論文指導等の名称 期間 概要(教育内容・方法等において工夫した点)         概要(教育内容・方法等において工夫した点)           (1) 講義 1 慢性期看護学・がん看護学 2018.1         2017.12           3 博士前期課程 成人看護援助論 2017.10~2018.1         2017.10~2018.1	1	織のあり方を考える-学生への対応に	共著	FDマザーマップ」対応型	子、高島尚美、飯岡	2017年4月		
日本におけるがん看護外来のアウトカム評価 指標の開発とがん看護外来の有効性の検討、 研究代表者  2 文部科学省科学研究費(基盤研究C)  3 文部科学省科学研究費(挑戦的萌芽)  3 文部科学省科学研究費(挑戦的萌芽)  3 教育業績	2. 竞	竞争的資金等の研究						
1 文部科学省科学研究費(基盤研究B)       日本におけるがん看護外来のアウトカム評価 指標の開発とがん看護外来の有効性の検討、 研究代表者       2014~2017年度         2 文部科学省科学研究費(基盤研究C)       看護基礎教育における主体性育成教育プログラムの開発と教育効果、研究分担者       2015~2017年度         3 文部科学省科学研究費(挑戦的萌芽)       看護系大学の臨地実習における合理的配慮の構造化とFD・SDプログラム開発、研究代表者       2016~2019年度         3. 教育業績       概要(教育内容・方法等において工夫した点)         (1)講義       1 慢性期看護学・がん看護学       2018.1         2 看護研究・研究倫理       2017.12         3 博士前期課程 成人看護援助論       2017.10~2018.1		競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別		研究期間			
2 文部科学有科学研究費(基盤研究の)     ラムの開発と教育効果、研究分担者       3 文部科学省科学研究費(挑戦的萌芽)     看護系大学の臨地実習における合理的配慮の構造化とFD・SDプログラム開発、研究代表者       3. 教育業績     概要(教育内容・方法等において工夫した点)       (1)講義     1 慢性期看護学・がん看護学       2 看護研究・研究倫理     2017.12       3 博士前期課程 成人看護援助論     2017.10~2018.1       2 2017.10~2018.1     1 日の・2018.1	1	文部科学省科学研究費(基盤研究B)		指標の開発とがん看護外来の有効性の検討、		2014~2017年度		
構造化とFD・SDプログラム開発、研究代表者   2016~2019年度   3. 教育業績   講義・演習・実習・論文指導等の名称   期間   概要(教育内容・方法等において工夫した点)   (1) 講義   慢性期看護学・がん看護学   2018.1   2017.12   3 博士前期課程 成人看護援助論   2017.10~2018.1   2017.10~2018	2					2015~2017年度		
講義・演習・実習・論文指導等の名称     期間     概要(教育内容・方法等において工夫した点)       (1) 講義     1 慢性期看護学・がん看護学     2018.1       2 看護研究・研究倫理     2017.12       3 博士前期課程 成人看護援助論     2017.10~2018.1       2017.10~2018.1     1	3	3 又部科学有科学研究質(挑戦的明牙)						
(1)講義       1 慢性期看護学・がん看護学     2018.1       2 看護研究・研究倫理     2017.12       3 博士前期課程 成人看護援助論     2017. 10~2018. 1	3. 孝	3. 教育業績						
(1)講義       1 慢性期看護学・がん看護学     2018.1       2 看護研究・研究倫理     2017.12       3 博士前期課程 成人看護援助論     2017. 10~2018. 1		講義・演習・実習・論文指導等の名称 期間 概要(教育内容・方法等において工夫した点)						
1 慢性期看護学・がん看護学     2018.1       2 看護研究・研究倫理     2017.12       3 博士前期課程 成人看護援助論     2017.10~2018. 1	(1)	(1)講義						
2 看護研究·研究倫理     2017.12       3 博士前期課程 成人看護援助論     2017. 10~2018. 1								
3 博士前期課程 成人看護援助論 2017. 10~2018.	-							
4 博士前期課程 看護倫理 2017. 10~2018.								
	4	博士前期課程 看護倫理	2017. 10~2018. 1					

(2)	演習						
1	1 博士前期課程 看護学演習 (成人看護 2017. 10~2018. 1						
(3)	<sup>+-/</sup>  '						
	1 IPW実習 2017.6~2017. 10						
_	論文指導						
_	修士課程	2017. 4~2018. 3	主指導1名				
(5)	その他		L				
1	該当なし						
4.	 社会貢献活動						
(1)	講演会、研修会等の講師						
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ		開催年月		
1	「Wemwn's Health総論」	上智大学	「女性のライフサイクルと健康-更年期とヘル スケア」「尿失禁とヘルスケア」「骨粗鬆症とヘル スケア」		2017年5月		
2	「助産理論」非常勤講師	慶應義塾大学	中高年女性の健康課題と	:支援	2017年11月		
3	博士前期課程 コンサルテーション論 非常勤講師	東京女子医科大 学	博士前期課程 コンサルテーション論 2単位		2017年11月~2018 年1月		
4	「ウィメンズヘルス特論Ⅱ」	聖路加国際大学	更年期・老年期女性の健康支援		2017年12月		
5	ELNEC-J(The End-of-Life Nursing Education Consortium - Japan)	東京都区西部緩 和ケア推進事業	「M10:質の高いエンドオブライフケア」		2018年2月		
6	平成29年度 青森県立保健大学 看護学 科	青森県立保健大 学	現代の実習指導の課題〜教育上の調整と合理 的配慮〜		2018年2月		
7	助産師教育指導者研修	埼玉県立大学	配慮が必要な学生の教育上の調整		2018年2月		
	第16回 臨地実習指導者研修会	旭川厚生看護専 門学校	配慮が必要な学生の学びにつなげる対応		2018年3月		
(2)	国、自治体、財団法人等における委員等	等 					
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称			任期		
_	日本女性医学学会 庶務委員会、将来検討委員会						
	2 日本女性心身医学学会 広報委員会						
(3)	ジャーナリズムでの発言				<u> </u>		
	メディア等の名称 内容			年月			
_ 1	1 サンケイリビング新聞社 サンケイリビン 更年期以降の女性ホルモンの減少による影響			野	2017年6月		
5.	5. 学内運営(委員会委員)						
1	1 研究倫理審査委員会						
2	2 研究推進委員会						
6.	6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)						
	受賞名			主催	受賞年月		
1	1 優秀演題(村田、飯岡:末期心不全患者の症状緩和におけるオピオイド使用に影響する医療者側の関連要 因) 日本緩和医療学会				2017年6月		
7.	7. 特許の保有状況						
	特許名			特許番号	登録年月		
1	商標登録(ii-navi)				2016年		
8.	, 特記事項						
	該当なし						